

保護者のみなさまへ



緊急アンケートと三者面談より

速報値と具体策(案)

令和2年4月28日 富士見丘小学校

調査期間 令和2年4月20日～24日
回答数 220件(95%) 4/24現在
4/24以降の御提出分は、後日再集計します。

休校中の短期間にご協力を賜り、感謝申し上げます。今後の方策に活かして参ります。

【今後の方向性】

在宅学習へ移行

■在宅学習という考え方にチェンジする

- 在宅課題を開発、学習、評価する。
- 週1から2回の相談日を設ける。

■現状ではオンライン学習は不可能

- 全ての家庭で実行可能な方法をとる。
- アナログで双方向性を担保する。

各調査項目より「児童の状況」

- 『生活状況』 保護者は最大限の努力をしているものの、家庭内での**運動や読書は困難であり、状況は深刻である**。福祉や教育による家庭支援が急務である。
- 『学習状況』 与えられた宿題や課題は、平常時よりも、真剣に取り組もうとする姿勢が感じられるが、自ら課題を設定し、**自主的に学ぶ力は簡単には身に付かない**。
- 『ICT環境』 95%の家庭でホームページ閲覧が可能であるが、その内スマホが6割を占め、各家庭において**オンライン学習が実現できるとは考え難い**。
- 『児童の困り感』 3月当初は、戸惑いながらも長期休みの延長のような楽観的な感覚であったが、現在は、**不安感が増している**。抜本的な方針転換、方策が必須。

さらに長期化の場合は・

個別指導を実施

■週1回以上は、担任と対面で会話

- 実態に依じて多様な展開を想定。例えば・
- Level. 1 1班2人 週1日 計1時間の個別指導
 - Level. 2 1班4人 週1日 計2時間の小集団指導
 - Level. 3 1班8人 週2日 計4時間の小集団指導
 - Level. 4 1班12人 週3日 計6時間の中集団指導
 - Level. 5 1班16人 週4日 計8時間の中集団指導
 - Level. 6 1班20人 週5日 計10時間の集団指導

【具体的な方策】

出口が見えないからこそ、中長期的な視点で、方策を実行する。

生活習慣

- 子供には大人の目が必要
→ 学校での「あずかり」を拡大する。

- 生活習慣を絶対に崩さない
→ 崩れている児童は、朝、登校させる。

学習習慣

- 人間の根源である運動と読書を確保する
→ 校庭と図書館の個別利用を要請する。

- ネット依存を阻止する
→ 学校としてネット利用時間を制限する。

個別指導

- 少人数・個別指導の制度設計が必要
→ 週1～2回の相談日や確認テスト。

- 自主学習を確立するチャンスとする
→ 自主学習を支援、コントロールする。

ICT活用

- 有用な情報の効果的な適時発信を重視
→ 有用な情報をホームページで発信する。

- 児童には保護者の支援が必須
→ 保護者向けICT活用マニュアルを作成。

中期展望

- 現状の困り感は、氷山の一部である
→ 個別のケアを充実させる。
もしも6月以降も休校の場合
段階的なスクーリングにより、
個別指導を充実させる

- 教員体制が不可欠である
→ 5月は、週2～3日の勤務とする。
▽ 現在の教員配置では限界がある。
▽ 教員の健康を守ることも重要である。
教員が倒れたら、すべてが無になる。